

ダイヤ財団のあゆみとこの1年

在宅介護の研究会から公益財団へ

ダイヤ財団の歴史は昭和 59（1984）年に生まれた前身の「ヘルスケアサービス研究会」に遡ります。三菱化成、三菱油化、明治生命保険、三菱商事、三菱レイヨン、三菱地所、東京海上火災保険（いずれも当時。以下同じ）の三菱グループ 7 社により設立されたこの研究会は、高齢社会における重要な検討課題として「在宅介護」を採り上げました。

さらに、昭和 61 年には三菱金曜会の呼びかけにより三菱銀行、三菱信託銀行、三菱電機、キリンビールの 4 社が加わった 11 社で「ホームケア推進協会」を設立し、在宅介護サービスの事業化を模索しました。

その後、三菱化成、明治生命保険、三菱油化が提案会社となり、広く三菱グループ各社に働きかけて、平成 5（1993）年に「ダイヤ高齢社会研究財団」を設立し、高齢社会をめぐる諸課題の調査研究を進めることとなりました。ホームケア推進協会から引き継いだ在宅介護サービスは平成 8 年に終了して研究機関としての現在の姿となり、平成 22（2010）年には公益財団に認定されて今日に至っています。



元気な高齢者づくりへの貢献をめざして

高齢化のトップランナーであるわが国において、介護や年金をはじめとする社会保障制度は重要な課題であることは論を待ちませんが、当財団では、高齢社会における健康、経済、いきがいについて実践的な研究を積み重ねてまいりました。

一方、高齢社会の課題解決には、地域における“元気な高齢者”の役割がますます重要になっています。そうした中、高齢者が元気を保つために欠かせない“社会とのつながり”を維持する方法の 1 つとして、ICT の有効な活用が期待されています。

そこで、当財団では平成 27 年度の一般向けシンポジウムのテーマを「人生 100 年時代の『つながり』を支える ICT の力」に設定し、高齢者の ICT 活用についてさまざまな角度からの情報をお届けすることを試みましたところ、幅広い世代の多くの方にご参加いただき、ご好評を得ることができました。

これからも、高齢社会における健康、生きがい、企業の対応などを主要領域として研究成果の蓄積を進めるとともに、時宜をとらえた情報発信により、社会に貢献していきたいと考えています。

理事長 冨澤 龍一